



日章学園九州国際高等学校校長便り 水無月

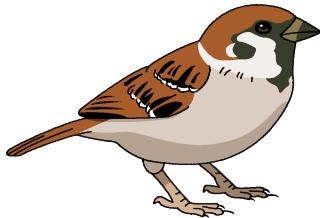
建学の精神：道義に徹し、実利を図り、勤労を愛す

学園スローガン：心を一つに

学校教育目標：国際的視野と人間性豊かな心を持ち、

自ら学び考え、自己の課題を解決できる生徒を育成する。

学園創立70周年 令和2年(2020年)6月1日(月)校長 屋田伸仁



鳴かぬなら



5月のカレンダーに目をやると、5月10日はバードデイで、10日から16日までが愛鳥週間です。本校はえびのの自然に恵まれ、校内の敷地内で朝の登校時間にときどき、芝生を歩くカモのカップルや池のほとりに立つサギと出会います。心が癒やされます。野鳥を間近で楽しめる学校は贅沢ですね。

さて、古来から、日本は鳥と深い関わりがあります。俳句や和歌にいろんな鳥が登場しています。その中でもほととぎすはよく活躍しています。有名な川柳があります。小学6年生が社会の歴史の授業で習った戦国三武将を詠った句です。3人の性格や行動の仕方がうまく表現されています。

信長の「鳴かぬなら 殺してしまえ ほととぎす」



信長は実行力を備え、大変厳しい人です。ほととぎすが鳴かないのなら、殺してしまえです。ダメなものはダメ。絶対許さない。あまり厳しいので、本能寺の変で家来の明智光秀に殺されます。信長から学びたいところは、ダメなものはダメという厳しさです。校則や社会のルール・規範は守る。

信長の厳しさで日々自分を律したいものです。

秀吉の「鳴かぬなら 鳴かせてみよう ほととぎす」



秀吉は、足軽から、太閤関白まで、大出世しました。まさに工夫努力の人です。冬の寒い日に信長のぞうりを懐で温めて、信長に気に入られました。ほととぎすが鳴かないのなら、鳴くようにいろいろと工夫してみましょう。たとえば、漢字や英単語を覚えるのに、見て覚えるばかりでなく、声に出す、単語帳をつくる、できないところを繰り返す等、工夫をすると効果的ですね。

家康の「鳴かぬなら 鳴くまで待とう ほととぎす」



家康は、思慮深く、忍耐強い人でした。小さい頃から人質になりました。苦労に耐えながら、文武に励みました。最後は下克上の戦国時代を終わらせ、徳川幕府約260年の平和な時代を築きました。ほととぎすが鳴くまで、待とうです。待つ力のある人です。学校生活や日常生活で、我慢したり、機が熟するのを待ったりする力もぜひ身につけたいです。

以上、信長の厳しさ、秀吉の工夫努力、家康の忍耐力、それぞれの良さを活かせば、きっと、充実した学校生活や生きぬく力にもつながると思います。



教育手品の動画配信を始めます

パソコンで日章学園九州国際高等学校のホームページ（<http://www.nissho.ac.jp/nkih/>）を開くと、校長が教育手品を使って学校紹介をする動画が見られます。（6月上旬配信予定）ウケるか、ウケないかわかりませんが、手作りの手品道具をこしらえて、毎回工夫して出したいと思っています。興味のある人は見てください。

また、教育手品の講習もしますので、よかつたら、声をかけてください。

【連絡先】電話 (0984) 35-3500

日章学園九州国際高等学校 校長 屋田 伸仁 (おくだ のぶひと)



Magic in Education

「教育に手品を」

